

東京藝術大学 × 長野県

安曇野 AIR 2022

アーティスト・イン・レジデンス

柴田早穂

「いとなみのかけら、つながる世界」

安曇野市教育委員会

さまざまないとなみに目を凝らしたり耳を澄ましたりしながら安曇野を巡りました。同時に採取・記録した「いとなみのかげら」たち。その小さなかけらの背後にひろがる物語を想像すると、それぞれが関係し合いながらひとつの大きな世界へとつながっていきました。



リサーチ

リサーチではふたつの内容に取り組み、それぞれを関連づけながら安曇野のいとなみの姿を捉えていきました。ひとつめは、作品のための素材採取を介して自然環境を知ること。ふたつめは、出会った人々からこの土地でどのように暮らしてきたのかを教えてもらい、人々の歴史について知ること。素材採取や聞き取りとともに、身近に溢れている小さな生物のいとなみや、水や空気の流れなどの意識しないと見過ごしてしまいそうな存在たちを映像や写真で丁寧に記録していきました。



YouTube ▶



ワークショップ

厚紙を鋳型にした鋳造ワークショップを開催しました。「安曇野の好きな“時刻”を留めよう」というテーマを設けて、参加者の方々の記憶のなかの安曇野の姿を教えてもらいました。つくってもらった作品はさまざまな時計のデザインの小さな錫のトレイです。みなさんの作品は安曇野の記憶として展示内で発表しました。



成果報告展示

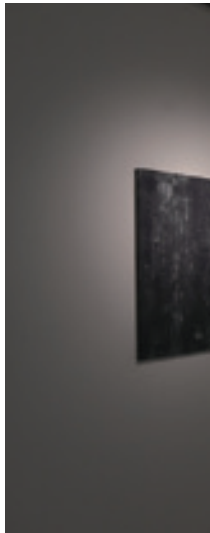
「いとなみのかけら、つながる世界」

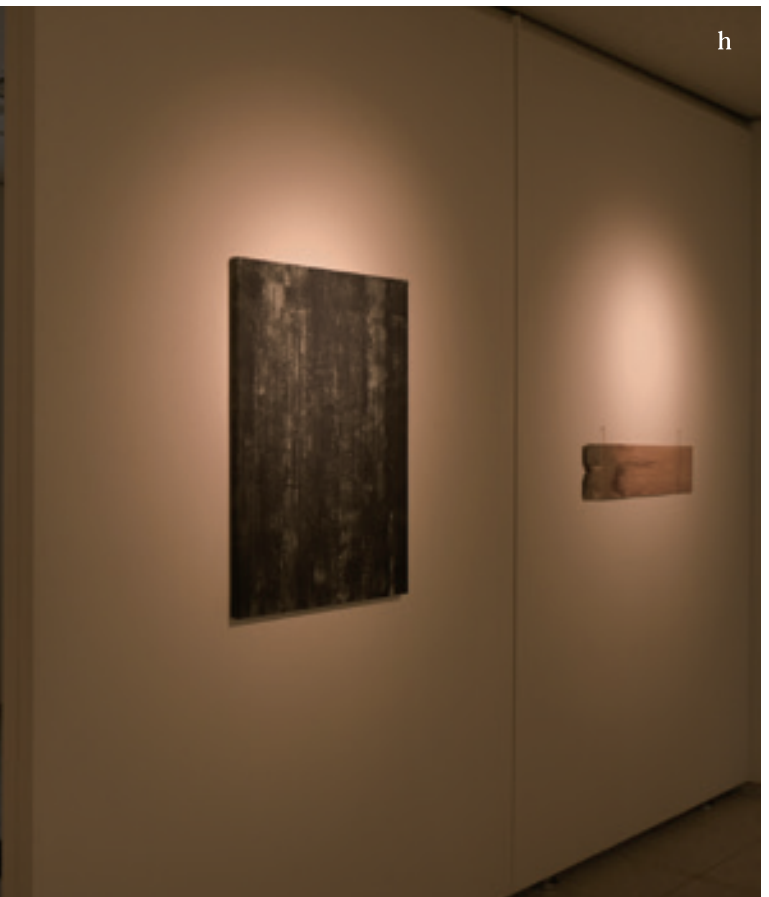
穂高交流学習センター・みらい 2022年10月16日～2022年10月30日

アーティスト・トーク 2022年10月16日



YouTube ▼





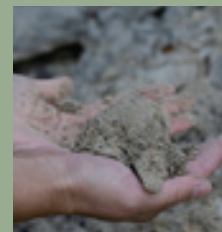
- a** 小豆島で採取した砂に指でタイトル文字を書いて鋳を鋳込んだ鋳物文字の看板
- b** 安曇野で採取した赤松の松脂と蜜蝋を用いた原型制作工程
- c** 鋳造後の鋳型の割り出し工程
- d** 安曇野の赤松の展示台の上に立つ真鍮のホンドギツネ
- e** 金属に置きかえられた植物やセミの抜け殻
- f** 曾根原家住宅の石置き板葺き屋根を原型にした鋳物や版画
- g** 烏川の河原の石を鋳型に見立てた鋳造
- h** 安曇野でのリサーチと小豆島での制作工程を記録した映像〈撮影：坪佐利治・柴田早穂 / 映像編集：坪佐利治〉
- i** ワークショップ作品：壁面の型押しされた画用紙は鋳型
- j** ワークショップ作品：小さな鋳のトレイ

安曇野での制作

宿の庭に保管されてあった築100年以上の土蔵の軒瓦や烏川の河原の石。それらを鋳型に見立てて錫を鋳込みました。瓦は装飾部分のくぼみに、河原の石は平らに近いかたちを探して、それらが存在している場所で鋳造をおこないました。冷えて固まるまでの錫にうつりこんだ景色は映像に、流し込んだ部分の鋳型の表情は固まった錫の裏側に、それぞれ記録されています。



小豆島「宮の森鋳造工房」での制作



安曇野でひろいあげた植物の葉やセミの抜け殻。それそのものを鋳型のなかで焼失させてできた空洞に、真っ赤に熔けた真鍮やブロンズを流し込みます。身近なモチーフが金属に置きかわり、永い時間そのかたちをとどめます。金属に置きかわったモチーフはみなさんの目にどのようなうつるのでしょ

か。安曇野の赤松より採取した松脂と、佐野養蜂園さんから手に入れた蜜蝋を溶かして混ぜ合わせた蝋。この蝋を用いて蝋型鋳造の原型をつくりました。モチーフは犀川で出会った夏毛のホンドギツネ。中洲からこちらをみつめる眼差しが忘れられません。彼らと人間との共生はどのような

国重要文化財の曾根原家住宅の石置き板葺き屋根。その屋根が葺きかえられた際にでた廃材を砂に押しつけて型どりし、錫を鋳込みました。小豆島の第三紀の砂岩の地層から採取した砂を鋳物砂として用いています。鋳物は風雨にさらされて朽ちかけた板の表情や小豆島の砂の粒子のかたちまでうつしとります。

安曇野 AIR 2022 日程

滞在期間

2022年8月23日～2022年9月5日

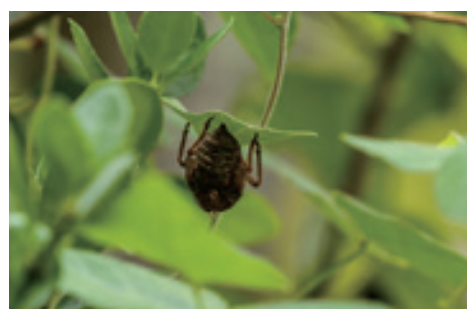
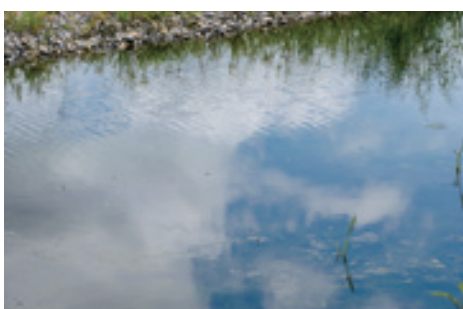
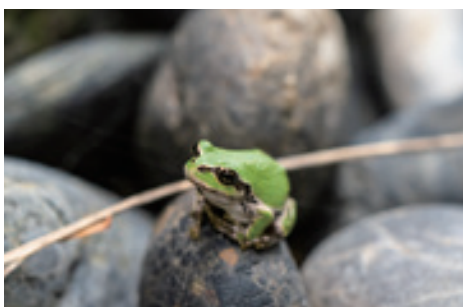
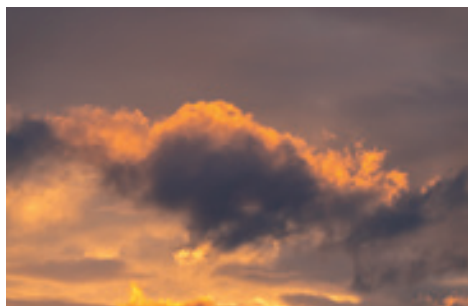
ワークショップ

2022年9月3日 鐘の鳴る丘集会所

2022年9月4日 堀金中学校

東京藝術大学連携事業 安曇野アーティスト・イン・レジデンス

クリエイティブ人材をアートの力で育てるとともに、アートの力を活力ある地域づくりに活かすための取り組みを進めています。アーティストが一定期間市内に滞在し、地域の調査や市民と交流しながら制作を行うことで、安曇野市が若手作家たちにとっての「新たな芸術を創造する拠点」となることを目指しています。



柴田早穂

さまざまな土地の“いま”を記録しながらその成り立ちを捉え、見慣れた風景に新たな視点をなげかける。現在、地元の小豆島に「宮の森鑄造工房」を構え、小豆島でのリサーチや素材採取をもとに作品制作とワークショップをおこなう。

- 1986 大阪府生まれ、5歳より小豆島で過ごす
- 2014 東京藝術大学卒業・修了制作展 買上げ
- 2018 東京藝術大学大学院博士後期課程工芸科鑄金 修了
- 2019 「柴田早穂展」大邱ジュエリータウン
- 2021 東京藝術大学工芸科鑄金研究室教育研究助手 退任
- 2021 「天空の芸術祭 2021」長野県東御市海野宿

Facebook ▼



Instagram ▼



東京藝術大学 × 長野県
安曇野アーティスト・イン・レジデンス
2022
活動報告書

発行：令和5年3月

安曇野市教育委員会文化課文化振興担当
長野県安曇野市豊科 6000
電話：0263-71-2463
FAX：0263-71-2338
e-mail：bunka@city.azumino.nagano.jp

撮影：坪佐利治 / 山田毅（展示風景）